

哲学委員会世界哲学構築のための分科会（第25期・第2回）

議事要旨

日時：2021年1月10日（日）15時00分～17時00分

場所：オンライン

出席者：納富信留（委員長）、上原麻有子（副委員長）、隠岐さや香、小倉紀蔵、加藤隆宏、加藤泰史、荻部直、河野哲也、下田正弘、田坂さつき、永井由佳里、中島隆博、野家啓一、吉水千鶴子、藤原聖子（幹事）

議題

1. 分科会の趣旨と経緯

本分科会の趣旨と経緯について納富委員長から説明がなされた。

野家委員から、2005年以前からのFISP（哲学系諸学会国際連合）と学術会議の関係について補足説明があり、現在もJFPS（日本哲学系諸学会連合）と学術会議は表裏一体となってFISPに加盟していること、またWCP（世界哲学会）を招致する場合、学術会議が主体になるのが本来の形であることが示唆された。

2. 情報交換

- ・納富委員長から、本分科会は、世界哲学研究に関して（日本の研究者にとって）対外的連携の窓口としての役割を持つこと、また2023年・2028年のWCP開催に関しFISPの状況について説明がなされた（2024年に変更開催の見込み）。2028年の日本開催に立候補することについては予定通りであることが確認された。

- ・藤原幹事から、2020年12月14～16日に開催されたCIPSH（国際哲学人文学会議）の総会・執行委員会について、特に本分科会の活動に関わる部分に関し、資料に基づき報告がなされた。

2022年に東京・慶応大学で開催されるCIPSH執行委員会に伴いシンポジウム等が企画されるが、本分科会にも連携が求められる可能性がある。

- ・上原副委員長から、2020年12月18日に開催された第38回日本哲学史フォーラム「Histories of Philosophy in a Global Perspective プロジェクト基調講演 世界の多様な言語の地平における「哲学史」の歴史性—コゼレック=プロジェクトの最初の成果」について報告がなされた。講演者はこのプロジェクトの代表者である、ドイツ・ヒルデスハイム大学哲学科教授ロルフ・エルバーフェルト氏。

本分科会とは引き続き情報交換を行うことになった。

3. これからの活動

2に基づき、今期の活動について意見交換を行い、次回の会合で決定することになった。